

釧路公立大学 出前・議会報告会開催概要

■ プログラム

- 開会
- 参加議員紹介
- あいさつ
 - ・ 釧路公立大学 大学祭実行委員会 小笠原 宏樹 委員長
 - ・ 釧路市議会 黒木 満 議長
- 報告
 - (1) 議会や議員に関すること
 - (2) 財政健全化などに関すること
 - (3) 観光客を増やすための対策などに関すること
 - (4) 生活保護に関すること
 - (5) 石炭産業の振興対策に関すること
- 意見交換
- 閉会あいさつ
 - ・ 釧路市議会 月田 光明 副議長
- 閉会

開催日時	平成 24 年 10 月 7 日（日） 14：00～15：40
開催場所	釧路公立大学 大講義室 1
参加人数	20 人
出席議員	（報告・意見交換） 黒木 満 議長 月田光明副議長 梅津則行議員（司会・議会広報特別委員長） 高橋一彦議員（議会運営委員長） 土岐政人議員（総務文教常任委員長） 鶴間秀典議員（経済建設常任委員長） 宮田 団議員（民生福祉常任委員長） 畑中優周議員（石炭対策特別委員長）

	<p>(受付・会場関係)</p> <p>森 豊議員 (議会広報特別副委員長)</p> <p>山口光信議員 (議会広報特別委員)</p> <p>松橋尚文議員 (議会広報特別委員)</p> <p>金安潤子議員 (議会広報特別委員)</p> <p>松永征明議員 (議会広報特別委員)</p> <p>松尾和仁議員 (議会広報特別委員)</p>
意見交換の内容	<p>公立大生: 国会などでは厳しい口調で激論になっている様子が目に映るが、市議会でも同様の場面はあるのか。ある場合は、どのような内容でそうした議論になったのか聞きたい。</p> <p>副議長: 市議会でも、本会議や委員会などで答弁者が困るような質問になる場合がある。常任委員長から具体的な例について紹介してもらいたい。直近の話題として、フィットネスセンターの存廃問題について鶴間経済建設常任委員長にお願いしたい。</p> <p>鶴間委員長: 昨年の6月議会から議論が始まり、今年2月までの審議となった。その過程では、昨年12月議会で市が提案したフィットネスセンター廃止の議案が否決されるということもあった。委員会でも毎回多くの皆さんが傍聴に来られ、議員の議論も熱を帯びるものとなった。主な議論としては、フィットネスセンターの廃止は時期尚早ではないか、廃止されると街が寂しくなるのではないかという意見や、財政的な面からも廃止したほうがよいなどの意見が交わされた。市議会としても前代未聞の状況だったと思う。</p> <p>副議長: 次に阿寒病院の問題で、宮田民生福祉常任委員長にお願いしたい。</p> <p>宮田委員長: 市立阿寒病院の今後のあり方として、市からは民間委託を考えての提案であったが、その前段として、阿寒病院の改革プランをつくり病院の経営改善について検討を進めていく中で、十分な検証が行われたのかという質問が議員側からあった。委員会でも、検証が不十分なまま民間への委</p>

託という結論を出すのは拙速ではないかという議論があり、また病院にとっても大きな転換であるにもかかわらず、地域住民や医療スタッフとの話し合いも十分されていない中で、行政から「委託ありき」という方向性が示されるのはおかしいということで、時間をかけての議論となった。そうした中で、現在の施設状況等では民間への移管はできないということがわかり、いま新たに、阿寒病院の今後のあり方について検討している状況である。

公立大生：『涼しいぞ！釧路』をスローガンとした観光施策について、現在行っている取り組みとその効果、また今後どのような企画を実施していくのか聞きたい。

副議長：長期滞在・移住に関する話題なので、土岐総務文教常任委員長からお話しいただきたい。

土岐委員長：現時点では、バナー広告を掲載することで、熊谷市のホームページを見た人に涼しい釧路に目を向けてもらうという段階である。また現在、夏季間に長期滞在している人たちが、釧路に定住するようになることも事業目的の一つとしており、そのためには雇用の場を増やすことにも取り組んでいかなくてはならない。また生活の面だけでなく、企業に関しても、コンピュータ関連産業での機器の冷却などに涼しい気候が活用できると思う。さらにスポーツ合宿の誘致も行われており、涼しさを逆手にとって地域PRを戦略的にやってほしいと考えている。

公立大生：今年、事業仕分けに参加したが、市の目的としては、市民に事業内容を公開するという意味合いが強く、もっと事業の削減に踏み込んでもよいのではと感じた。今後もこうした事業の公開や、行政評価をやっていく考えがあれば聞きたい。

副議長：土岐総務文教常任委員長からお話しいただきたい。

土岐委員長：釧路市の事業仕分けは、3年間ですべての事業についてチェックをするということであるが、わざわざ「仕分け」という形をとらなければならないのかという思いもある。一つの事業を始めたら、何年かごとにチェックするということを最初から想定していないから、全部の事業をチェックしなければならない。また仕分け結果が、即、市の今後の施策となるわけではなく、仕分けでの意見を踏まえて市で検討していくことになる。

公立大生：私自身としては見直してほしいものもあったが、「現行どおり」という結果が多く、これではやる意味がないのではないかと感じた。

土岐委員長：言われるとおりだと思う。仕分けの過程でいろいろな意見が出されることで、市ではそれを踏まえて施策を実施することになり、また市議にとっても市民の側にどういう意見があるのかということを知るきっかけにもなる。そういう点での意義はあるものと捉えられると思う。

公立大生：釧路市の事業仕分けから「廃止」という項目はなくなったが、どこの自治体でも「廃止」という項目は持っていると思う。なぜなくしたのか。

副議長：市の担当部局の判断で、そのように変更した。フィットネスセンターについては、仕分け人全員が廃止と判断し、また市からも廃止に向けての議案が提案されたが、議論する上で仕分け結果が前提となってしまうことについては、いろいろと問題もある。「廃止」という結論を事業仕分けの中で出すことについては、その後さまざまな課題が生じてくるという判断に立ったのだと思う。

公立大生：釧路市の生活保護は、他都市と比較して高い水準にあると聞いたが、自立支援プログラム等の効果や、今後どのような対策が必要かということについて、考えがあれば聞きたい。

宮田委員長：釧路市は道内で4番目に保護率が高い。さまざまな要因がある中で、基幹産業に厳しい状況が続いているということ、また建設関係の仕事についている人が多く、現在の経済状況の中で働く場がないということなども、受給者が増えていることの背景になっていると考える。その他の特色として、母子世帯の割合が多いこともある。こうした中、自立支援プログラムは全国から注目されており、今まで働いていなかった人が働く意欲や社会参加の意識を持つなど、急にではないが広がりが見えてきている。また不正受給という実態も皆無ではないが、自立したいとがんばっている人の手助けとなるよう、議会としてもそうした取り組みの拡充を図っていきたい。

高橋委員長：母子家庭の場合、中卒・高校中退といった人が多いため就業に必要な資格を取ることが難しく、単純労働に従事せざるを得ない状況にある。また資格を取ろうにも子どもを預けるのが難しいということも要因に挙げられる。

副議長：今後の対策という質問もあったが、釧路の場合、形式的に中学を卒業するという子どもが多くなっており、また高校に進学しても授業についていけず中退するということなど、基礎学力の低下に要因があるということがわかってきた。資格を取得しようにも、読む・書く・計算するなどの能力が身につけていないことが負の連鎖となり、生活保護に向かうという流れがあるということを確認するを得ない。教育においても、学力向上に力を入れ始めたところであり、自分で努力していく意欲を持てる最低限の学力を、子どもたちに身につけてもらうことが必要と考えている。

公立大生：観光客増加に関して、MICEに関するホームページがあるとのことだが、現在どのくらいの閲覧状況か。また実際に閲覧して釧路に来た人はどのくらいいるのか。

鶴間委員長：具体的な数字を把握しておらず、後ほどお知らせする。

	<p>公立大生：ホームページをつくって終わりにするのではなく、それをよくしていくことの方が大事だと思うので、よろしくお願いしたい。</p> <p>副議長：最後に石炭対策特別委員長の方から何かあればお願いしたい。</p> <p>畑中委員長：釧路の基幹産業であった石炭産業に関しては、太平洋炭鉱という会社が閉山し、釧路コールマインが事業を引き継いでいる。現在、釧路コールマインで行われている外国人の研修事業は世界的にも大事な事業であり、研修を行うことで中国などの炭鉱事故も大幅に減少しているという実態もあり、そうしたことも理解してほしい。</p>
--	---

○意見交換の中で、「後ほどお知らせする」と答えた件については、
下記資料を事務局を通じ質問した学生にお伝えした。

「MICEホームページ閲覧数と訪問者数」

	閲覧数	訪問者数
2011年 4月		
5月		
6月	669	539
7月	928	736
8月	880	724
9月	616	502
10月	483	390
11月	523	428
12月	431	366
2012年 1月	578	463
2月	588	467
3月	638	525
4月	667	549
5月	916	743
6月	958	775
7月	872	733
8月	890	722
9月	630	518